

# ようこそ 243 名の新入生

4月8日(月)に平成28年度あげな中学校の入学式が入学式を挙行し、443名の新入生の皆さんが、あげな中学校の新しい仲間となりました。皆さんの入学を心より待っていました。

○あげな小学校代表 目取真 託磨さん

あたたかい春の日差しの中、ぼく達新入生243名は、このあげな中学校に入学しました。中学校の校舎やグラウンドを見て、小学校気分も一新し、いよいよ中学生だなという実感がわいてきました。そして、今までと違う新しい生活には、不安な気持ちも抱く反面、どんなことが待っているんだろう言う気持ちで心を弾ませています。今まで、両親や先生方により与えられた道をすんで来ました。ですが、これからは中学生です。自分の事は自分でしっかりやり切る、自立という事を試がけようと思います。そして悔いの残らない中学校生活を送れ、自分を自分自身をもっと向上させていきたいです。校長先生をはじめ、先生方先ばい方これから3年間どうぞよろしくをお願いします。

○川崎小学校 名護良真さん

今日、ぼく達243名は、このあげな中学校に入学しました。中学校の校舎やグラウンドを見て、小学生気分も一新し、いよいよ中学生という実感がわいてきました。いよいよ中学校生活が始まります。中学校はいろいろな面で、小学校とは違います。教えて頂く先生が教科ごとにより変わり、新しい教科も増えます。勉強も難しくなると思いますが、一生けんめい頑張ります。中学校での楽しみは、部活動です。先生方や先ばい方に色々教えて頂きながら一歩ずつ頑張っていきたいと思っています。新しいクラスでは友達ともはなれたり、他の小学校の人達とも一緒になります。時には相手の立場に立って物事を考えられる心の広さを身に付け、いじめのない学年を作っていきたいです。そして、良き仲間として理解し合い、お互いを思いやりを持った生活を送れる様に行きたいと思っています。今からの中学校生活で時には苦しい事や迷う事があるかも知れません。でも強い心でのりきり、何事にも積極的に努力していきたいと思っています。ぼく達は、「やる気」と「元気」は十分に持っています。この「やる気」と「元気」で新入生一同せいよいよがんばりますので、先生方先輩方、これから3年間よろしくおねがいします。

○天願小学校 上江洲 安乃

柔らかく暖かな風に包まれながら、不安と楽しみという二つの気持ちが混ざり合った。不思議な気持ちでこのあげな中の校門をくぐりました。私たちは、3月に小学校を卒業しました。そして、今このあげな中学校の新1年生として入学してきました。中学校のグラウンドや校舎を見て小学生の気分のも一変市、いよいよ中学生だなと実感がわいてきました。中学校では、色々な面で小学校と違い、教科によって、教えて下さる先生がかわり、あたらしい教科も増えます。勉強のレベルも上がり、難しくなります。又小学校ではなかった部活動もありとても楽しみです。今日から始まる中学校生活離れないことだらけです。私たち新1年生は「いいこといっぱいあげな中」「夢実現」「絆・信頼・感動」の合い言葉で何事にも積極的にチャレンジし、努力して行きたいと思っています。先生方先輩方これから3年間よろしくをお願いします。

以上が各小学校の代表の挨拶でした。さあこれからが、本当の勝負の時です。

## 校長の思い

あげな中学校に赴任して約1ヶ月が過ぎました。校長としてこんなあげな中学校になったらいいなと思っていることを少し書きたいと思います。それは、あげな中学校「全ての生徒が、意欲な進路選択が出来る事です。」進路ですから、進学とは限りません。就職する生徒もいることでしょう。進学、就職にしても義務教育を終えているわけですから、自分自身をしっかり持ち、こんな生き方をしたいと強く思い、中学卒業後の進路を選択してもらいたいと思います。

そのためには、中学校生活を愉しんでもらいたいと思います。中学生が出来る事は、中学生にしかできないことでもあります。自分を信じ、自分をしっかり持てるよう中学校生活を充実させましょう。私も『どんな時も、最後まであきらめない強い心こそ、成功のカギ』を座右の銘としてしています。

# 切磋琢磨

第1号  
2016年  
5月12日

あげな中学校

校長  
福山 真

## 切磋琢磨

「琢磨」は玉・石などを打ち磨く意。学問をし、徳を修めるために、努力に努力を重ねること。また、友人どうしで励まし合い競い合って向上すること。

学校は、集団生活で成り立っています。皆さんは、これからも、ずっと集団での生活を行っていきます。そういう意味も込めて、学校通信の名前を「切磋琢磨」としました。一人一人が、光り輝く様にとの願いも込めました。

## 第165話 「トイレの落書き」

井深さんがソニーの社長だった時、  
新しくできた工場に一つの問題がありました。  
それは、トイレの落書きでした。

いくら社長命令で「落書きをやめなさい」  
と指示しても、なかなかなくならなかったそうです。

あげくには、「落書きをするな」  
という落書きまで出たといいます。

3か月が過ぎて諦めかけていた頃のことです。  
工場長から電話がかかってきました。  
「社長、トイレの落書きがなくなりました」

なんと、トイレ掃除のおばちゃんが、  
家から蒲鉾の板を持って来て、そこにマジックでこう書いて張り出したのでした。

「落書きをしないでください。ここは私の神聖な職場です」

社長命令でも、工場長の呼びかけでもなくならなかった落書き。  
それが、おばちゃんの一言でなくなった。

井深さんは、この話をリーダーシップの取り方について、  
例としてお話されたそうです。

リーダーシップとは、上から下へという指示とは限らない。  
横の関係でも、「あの人の言うことなら聞くよ」  
という人であれば、リーダーシップは自ずと付いてくるというのです。

それにしても、このおばちゃんはスゴイ。

「神聖な職場」

思わず、シャキッと襟を正さずにはいられませんでした。

※前任の校長先生が学校通信の裏面を使って、「ちょいといい話」を乗せ知いたことを聞  
福山も継続することにしました。よろしくお願ひします。